

第 2 6 回宇宙開発委員会（定例会議）

議事次第

- 1 日時 昭和 5 0 年 1 2 月 1 0 日(木)
午後 2 時～ 4 時
- 2 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3 議題 (1) N ロケット 2 号機の打上げに係る安全対策について（報告）
(2) その他
- 4 資料

委 2 6 - 1 第 2 5 回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨

委 2 6 - 2 N ロケット 2 号機の打上げに係る安全対策について（報告）

第25回宇宙開発委員会（臨時会議）

議 事 要 旨

1. 日時 昭和50年12月2日（火）
午後3時～5時
2. 場所 宇宙開発委員会 会議室
3. 議題 昭和50年度8～9月期におけるロケット及び人工衛星の打上げ結果の評価について（報告）
4. 資料
 - 委25-1 第24回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 - 委25-2 昭和50年度8～9月期におけるロケット及び人工衛星の打上げ結果の評価について（報告）
 - 委25-3 SESノート K-16067
K-10C-5号機実験報告
 - 委25-4 技術試験衛星I型/Nロケット1号機打上げ及び追跡管制報告書

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	山 県 昌 夫
" 委員	網 島 毅
" "	八 藤 東 禧
" "	斎 藤 成 文
説明者	
技術部会第一分科会長	佐 貫 亦 男
関係省庁職員等	
科学技術庁研究調整局長	伊 原 義 徳
" " 宇宙開発参事官	園 山 重 道

気象庁総務部長

宇都宮 寛

（代理：高谷）

宇宙開発事業団

黒 田 泰 弘

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 上 島 史 郎

宇宙国際課長 塚 田 真 一他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第24回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 昭和50年度8～9月期におけるロケット及び人工衛星の打上げ結果の評価について（報告）

佐貫亦男技術部会第一分科会長から資料委25-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

山県：（東大の打上げ実験に関して）外乱トルクの問題の解決はむづかしいのか。

佐貫：このような現象は事業団の実験でも起つたことがあり、新しい実験をやる場合には、この程度のことは起るものでまた東大での検討によればこのようなことがありうるということが明らかにされている。

今後外乱トルクについて十分な考慮をすることが大切であるが、今回の実験は低高度で小型ロケットにより行われたものであり、ロケットが大型化し、高い高度になれば、条件は異なってくる。

網島：S M R O 装置を装着したのが原因でこのように大きな外乱トルクが生じたのか。

佐貫：原因の1つである。このことは実験後の解析によつて裏づけられている。

網島：S M R O 装置を大きくすることによつて、ますます外乱トルクが大きくなるのではないか。

佐貫：燃料を増すだけではそのおそれは残る。

今後東大はLロケット、Mロケットに装備して実用時の形状で実験を進めてゆくことにしており、今回のようなことは無いと思われる。今後の実験を注目したい。

山県：（Nロケット1号機の打上げに関して）第3段ロケットの性能がよかつたということであつたが、どういうことか。

佐貫：1号機にしては遠地点が計画値よりもそんなに離れていない。また、ISPも291秒と高い。